

# 抄 録

## 結核専門雜誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose, Bd.  
72, H. 3, 1929.

### 1、簡單ナル兩側測胸計

Dr. Anthony und Dr. Hansen

肺萎縮ノ際、肺内又ハ胸腔内ノ變化ガ、胸壁ノ運動ニ如何程影響ガアルカラ知ルタメノ測胸計ハ、次ギノ要件ヲ具備スベキダ。

互ニ無關係ニ異ナル胸廓ノ點ノ運動ヲ記載スルコト、此ノ器具ヲ用ヒルタメニ患者ノ呼吸、又ハ呼吸静止位置ガ影響サレテハナラン、多クノ人々ガ用ヒタ、全胸壁ノ總合運動ヲ記載スル呼吸計ハ役ニ立タン、著者ハ此ノ目的ノタメニ簡單ナル胸壁運動記載計ヲ考案シ、胸壁ノ任意ノ局所ノ運動ヲ量的ニ記載スルコトヲ得タ。

### 2、片側ノ肺及肋膜疾患ニ於ケル胸壁ノ運動

Dr. Anthony und Dr. Hansen

著者等ハ「トラコグラフ」ヲ以テ健康者及片側ノ肺、肋膜ニ疾患ヲ有スル患者ノ胸壁運動ヲ研究シタ。

健康者ニ於テハ其ノ差僅少テ、片側ノ肺結核、胸水、乾性肋膜及肋膜癭痕等ニ於テハ差が大デアル、而シテ胸壁運動、肺呼吸、互斯交換等ノ間ノ關係ヲ述ベタ。

(浦谷抄)

### 3、肺結核早期浸潤ノ問題ニ就イテ

Prof. Dr. y. A. Moeller

著者ハ鎖骨下浸潤ハ成人結核ノ急性初期デアル、トイフ新ラシイ研究ニ基ツイテ、X線像ニ就キ之レヲ研究シ、百名ノ患者ノX線像ヲ詳密ニ検査シタ。其中二九名ハ唯肺尖部ノミノ罹患ヲ示シ、三三名ハ肺尖部及 Obereschoßノ罹患ヲ見、三八名ハ肺尖部健全テ、唯鎖骨下ノ病竈ノミヲ示シタ、最後ノ三八名中八例ハ局限性ノ浸潤、三〇例ハ散亂狀ヲナセル鎖骨下結核が見ラレタ。是等ノ例ヲ詳細ニ研究シ左ノ如ク總括シタ。

一、成人ノ急性浸潤ハ特別ナル結核ノ發生型デアル。  
二、此ノモノハ稀レニ治癒スルモ多クハ悪性ノ經過ヲトル。  
三、上記ノ理由ニヨリ、出來ルダケ早クX線検査ヲ施行シ、之レヲ發見セザバナラン。

四、早期浸潤ハ全力ヲ擧ゲテ治療セザバナラン。  
五、所謂早期浸潤ト稱スベキモノハ比較的少數ノヤウニ思ヘル。  
六、早期浸潤ハ主トシテ肺尖病竈ノ第二期デアル。  
七、成人ノ慢性肺結核ハ多クハ肺尖部ヨリ起ル。

(浦谷抄)

### 4、人結核發生ノ問題(ペトロウスキーカラ)

ンケ)

Dr. Ednard Schulz

結核初期變化群ノランクノ説ハ、若シ結核性疾患ガ結節形成ノ組織變化ヲ以テ初マルモノトスレバ正當デアルカモ知レンガ、併シ恐ラクハ、ペトロウスキーノ考ヘニ一致シテ、他ノ傳染性疾患ト同様ニ、防禦組織ノ炎症、詳言ス

レバ、腺様組織竝ニ淋巴組織ノ炎症腫脹ヲ以テ始マルノデアロウ。後者ノ考察ニ依レバ、ゴーンランケノ初發病竈、就中肺ニ於ケルモノハ血流量ノ病竈テランケノ所謂初期變化群ハ第二期ノ始メト認ムベキモノデ、其ノ際結核ノ初發ハ、ペトロウスキーニ依ル淋巴腺疾病ヲ形ヅクルモノデ、所謂保護的炎症トシテ臨牀的ニ認メラレル。實地ニ於テモ此ノ假定ハ極メテ重要ナル、何ントナレバ此ノ説ニ依レバ結核ノ發生ガ臨牀的ニ確定サレ、ワルテイエルノ咽頭環ノ慢性増殖竝ニ外部淋巴腺ノ腫脹等モ保護炎症ト認メラレルカラダ。

結核ノ發生ヲ認識スル上ニ重要ナル問題ハ、特有ナル結核炎症ヲ詳密ニ鑑別シ診斷シ得ルニ足ル、標識ト方法トヲ見出ストイフコトダ。(浦谷抄)

### 5、乳兒結核ノ感染系路ニ就テ

Eugen Stransky.

著者ハ獨國ノ母性乳兒救護所ニ於テ、乳兒結核患者ノ傳染系路ヲ調査シ、從來ノ經驗ニ一致シテ家族内感染ガ數字上極メテ重要ナルコトヲ説キ、感染原ニ關係シテ疾病ノ經過及死亡率ヲ例證シ而シテ總括シテ之レヲ記述シタ。

(浦谷抄)

### 6、ザウエルブルフ、ヘルマンドルフ、

ゲルソンノ結核食餌療法ニ對スル一ケ年半

ノ臨牀的觀察

Fr. Liesenfeld

著者ハ肺結核ノ停止性ノモノニ一ケ年半、ザウエルブルフ、ゲルソン、ヘルマンドルフ、ニヨル食餌療法ヲ行ツタ、即是等ノ著者ノ追試ヲ行ツテ次

ギノ結果ニ到達シタ、即チ尿ノ酸性變化ハアラハレナカッタ、尿中ノPHハ上昇セズ、Alkaliescheハ下降シナカッタ、血中「カルチウム」ハ上昇シ、食鹽ハ減少シタガ、是等ノ間ノ規則正シイ關係ハ證明サレナカッタ、此ノ結果ト他ノ學者ノ報告ヲ比較スルニ、此ノ食餌療法ハ一般ノ治療方法トシテハ否定サレルガ、カ、ル方面ノ開拓ニ幾分價ガアルト思ハレル礦物鹽ハ否定サレル。尙此ノ上ノ決定ヲ確立スルタメニハ、血液検査、臟器分析等ノ研究室的研究ヲ行ハナケレバナラン、ヘルマンドルフ、ニ依ル「食餌療法」ノ效績ハ、結核ニ食餌療法ノ大切ナルコト、及「ビタミン」ニ富ム食餌ガ結核患者ニ大切ナルコトヲ示シタトイフコトニアル。(浦谷抄)

### 7、結核ト身體ノ鍛練

Ch. Fawuschinski

一般ニ散歩ハ無熱患者ニ必要ナル。

筋力運動ハ血液ヲ早クシ、毒素ヲ病竈ヨリトリ去リ、之レヲ身體中ノ他部ニ移動セシメ、其處テ防禦物質ノ生成ヲ促スモノデ、抵抗力ハ身體ノ鍛練ニヨリ高マル。

身體運動ハ筋ノ發達ヲ促スノミナラズ、健康ヲ増進シ、大氣ニ對シテ抵抗ヲ高メ精神ヲ爽快ニス。

尙「スポーツ」ハ結核肺ノ治癒ノ因子トナルコトガアル、併シ體温ヲ詳密ニ検査スルコトハ最モ必要タ。

著者ハ一例ノ患者七例ノ健康者ニツキ、患者ノ筋力ヲ測ル「エルゴスタート」竝ニ山登リニヨリ、仕事ヲナサシメ、

其ノ成績ノ體温、脈搏、呼吸數、發汗等ヲ検査シ、一般ニ體温ハ $37.5$ 乃至 $38.5$ 三度上昇ヲ見タガ、其中二例ハ體温ガ下降シタ、發汗ハ患者モ健者モ餘リ變

化ハナカッタ、山登リニ於テハ、體温ハ健者ヨリモ患者ガ幾分高マルガ從來考ヘラレタル程ニ上ラナカッタ。

(浦谷抄)

## 8、急性浸潤ガ肺尖加答兒及肺癆ニ關スル關係

### (X線手技ニ就テ)第二回

E. Haeger

著者ハ三回ノX線寫眞像ニヨリ、肺尖病竈竝ニ鎖骨下病竈ガ、其ノ撮影方法ニコリ、肺尖陰影像ハ消失シテ、鎖骨下病竈ノ影像ノミヲ示シ、恰モ早期急性浸潤ノ如クニ見ユルコトアルヲ述ベ、小ナル裝置ニテ高壓ヲ用ユル時ハ、「スピッチェンフェルド」ハ消失シテ、早期浸潤ガ容易ニ表ハル、コトヲ述ベ、第三期結核ノ「ズプアピカール」發生ヲ研究スルニハ、餘リ固クナイ線ヲ以テ、一枚ハ時間ヲ長ク、一枚ハ短ク撮影シ、何レニモ肺尖變化ガナイトイフ證明ヲ與ヘテバナラント云ツタ、而シテ撮影ニ萬全ヲ期スルクメ、現象ノ方法撮影法等ニツキテ詳細ニ述ベタ。

(浦谷抄)

## 9、人工氣胸ニ對スル片側肺ノ態度

A. Bauer, Sanathum, Wienewald.

一般ニ兩側肺ガ侵サレタル場合、一側ノ肺臟ニ人工氣胸ヲ施セバ、他側ノ病竈ヲ刺戟再燃セシムルモノナルモ、豫後不良ニシテ、其ノ他ノ治療方法ナキ兩側罹患患者ニ、重側ノ人工氣胸ヲ施シテ、好結果ヲ得ル場合ガアル、即一定期間治療ヲ行ヒ、一側ノ病症ガ幾分減退シタ時ニ之レヲ行フ時ハ、反側モ同様ニ良好結果ヲ示スコトガアルトイフコトヲ例證シタ。

(浦谷抄)

## 10、X線ノ生物學的作用

### 一、肺結核患者白血球像ノ線ニ對スル關係

抄 録

D. Georg, Bratiska

著者ハ肺結核患者ヲX線ニテ照射シ其ノ白血球像ノ變化ヲ左ノ如ク區分シタ。  
一、「エオジン」嗜好細胞增多型、之レハ放射後「エオジンファイリー」ヲ起スモノデ、經過良好ナルコトヲ示ス。

二、大單核細胞增多型、放射ノ始メ大單核細胞ガ極メテ多クナリ、後ニ至リテハ又減少ス、之レモ經過ノ良好ナルコトヲ示ス。

三、多種反應型、桿狀核細胞ノ少許ノ増加、白血球ノ減少、淋巴球増加、大單核細胞始メハ増加シ後減少、「エオジン」細胞ハ減少後増加ス、此ノ型ガ症例ノ大多數ヲ占メテイル。之レモ經過ノ良好ナルコトヲ示ス。

四、強多種反應型、前者ノ反應一層強度デ、始メ「エオジン」細胞、淋巴球ノ減少ヲ示ス、此ノ場合ハ經過稍々不良デアアル。

五、融解型、白血球數ノ減少後増加、「エオジン」細胞ノ消失、淋巴球ノ減少等ヲ見ル、經過不良ナルコトヲ示ス。

六、無反應型、之レハ萎縮性ノモノニ多ク、始メヨリ血像ノ正常デアッタモノノミデアツタ。

一般ニ始メニハ大ナル動搖ガナイガ、良好ニ作用スル時ハ變化ガ表ハレテクル。即吾人ハ融解型ニ注意シ、適應症竝ニ、放射量ヲ適當ニ加減セテバナラシ。

(浦谷抄)

## 11、海狸ノ結核初期感染ニ對スルX線作用ノ

### 病理解剖學的研究

Dr. Georg, Bratiska

著者ハ海狸ノ腹部ニ四ヶ所、結核菌ニヨリ皮内丘疹ヲ造ツテ、其ノ中二顆ヲX線ニテ放射シ、二顆ヲ對稱トシタ、一定時日後對稱ト共ニ其ノ一ヶ宛ヲ取

二七五

り出シ、之レヲ肉眼的、顯微鏡的ニ觀察シ、一般ニX線放射ハ壞死竝ニ融解傾向ヲ大ニスルガ、結締組織成ヲ直接ニ促ス作用ハ見ルコトハ出來ナカツタト云ツタ。  
(涌谷抄)

### 12、大ナル浸潤融解ノ自然治癒

Dr. Franz Ickert.

著者ハ右側鎖骨ト、右上葉ノ下部、左鎖骨下ニ來タ早期浸潤ノ一例ニ就テ、右側鎖骨下左鎖骨下ノモノハ結締組織ノ癍痕トナツテ治癒シ、右上葉下部ノモノハ、大ナル空洞様ノ像ヲ示シ、液ノ滯留サヘ認めタルモ、之レモ八ヶ月後ニ治癒セルトト報告シタ、此ノ液ノ滯留ハ恐ラク葉間肋膜ノモノデ、空洞ハ此ノ液ノ壓ニヨリ縮小シ、多少結締組織ノ増殖ト共ニ、空洞影像ヲ失ツタモノデアラウト述ベテ急性ニ浸潤ヲ生ジ、融解シ治癒スルコトノ一例ヲ示シタ。  
(涌谷抄)

### 13、肺結核ト酸中毒(乳酸)

Fr. Pomplun

肺結核患者ニ於テ、極メテ輕症ナルモノハ少許ノ運動後ニ於テ血中乳酸含量ハ變化セザルモ、重症者ニ於テハ靜止時ニ於テモ、少許ノ運動後ニ於テモ、其ノ含量ハ多イ、運動ニヨリ生ジタ乳酸ハ酸化ニヨリ、又ハ再化成シテ「グリコーゲン」トナルモノナルモ、重症患者ニ於テハ此ノ作用が衰エテイル、一般ニ乳酸量ハ酸化ノ時期ニ、酸素が少ナケレバ少ナイ程多クナルノデアアル、即是等ノ患者ニ於テハ、<sup>失化</sup>消酸ノ乳酸ノ比が病的トナルノデアアル。  
即肺結核患者ハ動脈血中ニ於ケル、比較的竝ニ絕對的酸素含量不足が證明セラレル、此ノ不足が乳酸ノ増量ヲ起スモノト見ルガ至當ダ。

一方ニ於テ瓦斯分析ヲ、他方ニ於テ血中ノ乳酸ヲ檢定スルト重症ニ於テ安靜

時ニハ、思ツタヨリ多クノ酸素不足ト不充分ナル酸化ノ結果炭酸ノ過重が代償サレテイルモ、少許ノ運動ニヨリテ既ニ代償作用ハ破壞セララル、酸ノ自家中毒が起ルモノダ。  
(涌谷抄)

### 14、一例ノ肺結核ヲ有スル内臟轉位患者

Dr. H. Poepping

著者ハカ、ル患者ノ一例ヲ報告シ、併セテ此ノ患者が精神的衰耗者デアツタコトヲ述ベタ。  
(涌谷抄)

### Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 54, H. 3,

1929.

### 15、兩側氣胸療法

E. Gabe

兩側氣胸療法ヲ行ヘル六例ノ報告ナリ、該患者ハ一般ニ兩側性、重症、進行性、開放性、空洞形成ノ状態ニアルモノニテ發病一年以内ノ若年者(二十歳ヨリ二十五歳迄)ナリ。

氣胸作成ニハ瓦斯ハ少量、約三〇〇乃至四〇〇珪ヲ入レル、第一回ノ時ハ一侧ニ入レテヨリ、數週ヲ經テ後、他側ニ入レ、ソノ次ヨリハ兩側交互ニ行ヒ、更ニ後ニハ兩側同時ニ瓦斯ヲ入レタリ、氣胸施行ニヨル續發症トシテハ殆ンドナク、唯一度、漿液性ノ滲出ヲ見タノミニテ六例共一般ニ満足ナル結果ヲ得タリ、而シテ喀痰ノ減少、消失、且ツ解熱シ、尙血球沈降、白血球像モ同時ニ良好ニ向ヒ輕快著明ナリト  
(伊藤抄)

### 16、結核ニ於ケル混合感染

(伊藤抄)

結核菌ノ培養上「アミノ」酸ガ菌發育上ニ有效ナルコトヲ述ベ、混合感染ナキ結核病的材料中ニハ「アミノ」酸ヲ檢出シ得ザルニ反シ混合感染材料ニハ常ニ遊離「アミノ」酸ヲ見出セリ、故ニ著者ハ開放性結核ニ於テハ結核菌ト混合感染菌トハ恰モ共棲生活ヲナシ、後者ハソノ發育ニ必要ナル組織壞死物ヲ前者ニヨツテ得、前者ハ又ソノ發育ニ必要ナル「アミノ」酸ヲ後者ノ組織分解ニヨツテ得兩々相俟ツテ盛シニ發育シ炎症ヲ進行セシムト。

### 17、「結核ハ淋巴腺ノ疾患ナリ」

E. Schulz

淋巴腺系統ガ結核ノ發生、轉歸ノ上ニ密接ナル關係ヲモツコトヲ説明シタル著者ノ一九二九年一月プラーグ開催ノ第二回南東獨乙醫師會ニ於ケル講演集ナリ。

### 18、醫師ノ業務中ニオケル肺結核罹患

H. Brauning

管テ健康ナリシ一女醫ガ肺結核ニ罹レル徑路ニツキテソノ罹患ノ次第ヲ考查ナル一例ナリ、該患者ハ管テ非常ニ狹隘混雜セル非衛生的設備ノ一室ニテ外來患者ノ診療ニ從事セルコトアリ、コノ以前ニ於テハ患者ハ全ク健康ニシテ二三次、診察ヲ受ケタル際ニモ肺所見ニ異狀ナク、「ツベルクリン」反應モ陰性ナルニ拘ラズ、此ノ診察室ニ入ツテヨリ數ヶ月後次第ニ諸徵候ヲ發現シ、遂ニ兩側肺結核ナルコトヲ確實ニ診斷サレタリ、以後専ラ靜養ニ務メテ現在ハ全ク輕快セリ、コノ例ヲ見ルニ該患者ハ從來種々ノ研究室ヤ病室ニ於テ結核患者ニ接シタルコトアリシモ、現症肺結核ノ發生ノ原因ハ恐ラクコノ非衛生的室内ニオケル仕事ニアルベキコトヲ提言セリ。

(伊藤抄)

### 19、肺臓色素沈著ト Anthrakose ノ意義

F. Lokert

近年フランスノ Jousset ノ研究ニヨレバ從來 Anthrakose ト云ハレテ居ルモノハ單ニ炭粉ノ沈著ノミニアラズシテ、色素素ヨリ由來セル含鐵物質ニモ因スルモノニテ特別ノ方法ニヨリテ鐵ヲ檢出シ得ルモノナリ、依ツテ Anthrakose ナル名稱ノ代リニ Melanosiderose ト命名セリ、而シテカ、ル色素沈著ハ生理的ノモノナラズ、肺ノ炎症殊ニ、慢性炎症部ニ見ラル、モノ多シ、コノ場合特ニ肺結核ニ於テ鐵反應ハ著明ナルコトヲ指摘セリ。

### 20、喀痰中結核菌培養ノ實際的意義ニ就イテ

H. Schulte-Figges

Hohn ノ培養ヤ Putnami ノ培養ハ喀痰中ノ菌發見ニ於テハ單ナル塗抹標本檢鏡ニ比シテ一段ノ確實サヲ有ス、更ニ動物試驗ニヨルハ最モ確實ナル方法ナリ、検査官、結核療養所、結核病院等ニ於テモ現在ノ如ク單ニ喀痰檢鏡ニテ満足スルハ不充分ナリ、宜シク前述ノ培養法ニヨリ、尙疑ハシキ場合ハ更ニ動物接種法ニヨルベシ。

### 21、肺結核ノ假面トナツタ心臟病

(癩兵給費ニ關係シタ二例ノ鑑定)

R. Menzel

奥國ノ癩兵給費法ニヨレバ戰事疾患ハ一定ノ期間内ニ申告スレバ相當ノ給費ヲ受ケルコトニナツテ居ル、是等ノ申告ノ中ニハ隨分診斷ノ誤失ヤ、不明瞭ノタメニ給費問題ニ支障ヲ來スコトガアル、今コ、ニ提ケタル二例ニ於テ、戰事疾病申告ノ判定ハ往々、長イ間誤診サレテ居タ爲ニ困難トナルコトガア

ルコトヲ示シ、殊ニ心臟病ト肺病トハソノ兩器官ノ位置的及機能的關係ノタ  
 メニ屢々互ニ誤診サレル、此ノ第一例テハ心臟病トシテ申告サレタモノデア  
 ルガソレハ實ハ初期ニ心臟症狀ガ著明デアツタ爲、肺病ヲ心臟病ト誤診サレ  
 タノテ末期ニナツテ明カニ慢性、惡性肺結核症狀ヲ現スニ至ツタモノデア  
 ル、第二例テハ實際ニ戦争後心臟病ガアツテ、後ニナツテ肺病ガ加ハツタ者デア  
 ツテコノ肺疾患ハ戰事疾病トハ見サナレナイモノデア  
 ル。(伊藤抄)

### 22、肺結核療養所ニ於テホーン氏菌培養法ノ適用ニ就イテ

適用ニ就イテ

K. Krause

術式ハ Hohn ノ指示ニヨツテ行フ、菌ノ Kontie ノ發育外見、觀察期間等  
 ハ他ノ諸家ノ實驗ト殆ンド大差ヲ見ナイ、而シテ集落形成迄ノ最短日數十三  
 日、最長三十四日デア  
 ル。

一 二〇例ノ檢鏡上菌陰性ノ喀痰ヲ培養シテ陽性二・三・四%、ソノ中臨牀的ニ重  
 症例ニ於テハ陽性五四・一%輕症一二・三%デア  
 ル、而シテ培養上陰性ナル場  
 合ニハ又類症鑑別ヲ治療效果ヲ察スルニ役立ち、本培養法ニヨル結核菌明  
 從來ノ方法ニ比シテ一段ノ進歩デア  
 ル、療養所等ノ研究室ニ於テハ別ニ苦  
 ナク出來ル方法テ、動物試験ニヨルコトノ出來ナイ爲ニ起ル缺陷モコレニ  
 ヲツテ滿サレル譯デア  
 ル。(伊藤抄)

### 23、H. Zein ノ業績「結核家兔ニ於ケル血液

中水素「イオン」濃度ニ就イテ

J. Kentzler und P. Kallós

Zein ノ研究ニヨレバ結核家兔ノ血液水素「イオン」濃度ハ増加シ「アルカリ

」貯藏モ減少スルカソノ變化程度ハ疾患ノ輕重ニ對シテ規則正シキ關係ハ  
 ナイト、然ルニ著者ノ多數例ノ測定ニヨレバ人結核ニ於テハ酸・鹽基平衡ノ障  
 碍ハ疾患ノ經過ノ輕重ニ規則的ノ關係ヲ有ス、PH 測定ハ Holo-Weiss ノ方法  
 ニ依リ、貯藏「アルカリ」測定ニハ F. J. P. の測定法ニヨル。(貯藏「アルカ  
 リ」ハ Na (Hemig-Prov.) ヲ意味ス)輕症ヨリ重症ニ行クニ從ツテ數ハ減ジ  
 貯藏「アルカリ」ハ減少ス。此ノ所以ヲ察スルニ人間ニ於ケル酸、鹽基平衡  
 ハ内分泌器官及交感神經ノ統制ヲ受ケテ居リ、コレヲハ慢性疾患ノ場合ニヨ  
 ク代償シテ「アチドージス」ヲ防グノテアルガ終ニハ代償障礙ヲ起ス、實驗動  
 物結核ニ於テハ、コノ邊ノ程度ガ人結核ノ場合ト異ルタメニ前述ノ如キ相違  
 シタ結果ヲ示スノデア  
 ラウ、即チ實驗動物結核テハ多ク急性又ハ亞急性ニ經  
 過スカラテアル、人間ニ於テモ急性ニ經過スル處ノ粟粒結核ニテハ殆ンド正  
 常値ヲ保有シテ居  
 ル。(伊藤抄)

### 24、閉鎖性小兒結核ニ就イテノ一文獻

V. Mikulowski

一九二七年ニ得タ一例、三歳ノ小兒、急性ノ經過ヲトリ全身症狀強ク營養不  
 良、全身水腫アリ、體溫三・七乃至三八・二度一日數回下痢アリ、糞便中ニ結  
 核菌ヲ見出ス、右中指ニ指趾骨節骨膜炎アリ、頸部、腋窩ニ硬イ腺塊ガアル  
 胸部所見ハ異狀少シ、入院十日後死ス、診斷、中指骨結核、腋窩頸、肺門腺  
 結核、結核性腸潰瘍、解剖スルト腋窩、頸、肺門、腸間膜淋巴腺結核、及、中指  
 骨結核デア  
 リ、肺實質ヤ腸ニハ結核ハナク臨牀的診斷ト異ル、即チコレノ場合  
 下痢便中ノ結核菌ハ腸結核ニ由來シタモノテハナカツタノデア  
 ル。然ラバコ  
 ノ際如何ナル道ヲ通ツテ淋巴腺ヤ骨ヨリ菌ガ腸管内ヘ入來ツタノデア  
 ルカ、  
 結核人及動物ノ膽汁中ニハ、常ニ結核菌ヲ見出スト云フコトハ、既ニ數多ノ

人々ニヨツテ知ラレテ居ル、一方又早期ニ於テハ血液中ニモ結核菌が発見サレテ居ル、而シテ骨結核ニ於テソノ膿中ニ菌ヲ見出スコトハ稀ナル。More Alexander<sup>1)</sup>ハ五十二例ノ閉鎖性結核(肋膜炎、粟粒結核、骨關節結核ノ糞便中ニ菌ヲ発見シタ、著者ノ本例ニ於テハ解剖後ニ糞便、及膽汁ヲ海狸ニ接種シテ立派ニ結核ヲ起サシメルコトガ出來タキノテアル。

(伊藤抄)

## 25、結核菌ノ生物學的、化學的研究

V. A. Vassilou

百五十瓦ノ結核死菌ヲ水ニテヨク洗ヒ、之ニ三百五十瓦ノ「クロロホルム」ヲ加ヘ五時間振盪器ニカケタル粥狀物ヲ二十四時間室温ニ放置スレバ二層ニ別レテ沈積ス、上部ハ密ニシテ、黒ヅミタル部、下部ハ淡キ透明ノ部ナリ、上層黒色物ハ蠟様ヲ呈シ一ノ臭氣アリ、下層物ハ脂肪様ニテ表面滑カナリ、コノ二者ニツイテソレレド検査セルニ、此ノ蠟様脂肪様物質何レモ何等ノ溶媒ニトケズ、又ソノ「クロロホルム」抽出物ハ酸性ノ脂肪モ蠟ヲモ含マズ、元素分析ヲ行フニ、常ニ炭素、窒素、水素、酸素、硫黃ヲ含有セリ、ソノ水溶液中ニハ蛋白質、及膠素ヲ含ミ、フェーリング氏液ニ對シテ還元作用アリ、蠟様物質及脂肪様物質ハ菌體ニハ無關係ニシテ、菌體內ニハ Bluntin<sup>2)</sup>ヲ含ム。菌ヲ小管中ニテ炭化スルニ、白黃色ノ蒸氣ヲ生シ、糖ヲ燒クガ如キ臭氣ヲ發シ、後ニ海綿様ノ殘渣ヲ殘ス、溶融點ハ蠟、脂肪ノソレニ一致セズ二八〇度迄熱シテモ溶融シ初メズ。フェーリング氏液ヲ還元スル性質ヨリ出發シテ種種ノ糖質ノアラハス反應ヲシラベタルニ、該物質ハ五炭糖ニ類スルモノニシテ更ニ、ソレハ「アルデヒド」ニテ Aldopentose<sup>3)</sup>ノ一般型ニ屬スルモノナルベシト。

(伊藤抄)

## 26、B、C、Gヲ以テセル防禦免疫ノ價值及安

### 全ニ就テ 新分解批判

S. A. Petroff.

結核戰ヲ進ムルニ吾人ハ今ヤ交叉路ニ達シテ果シテ何レノ路ニ進ムベキヤヲ決定セザルベカラザルニ立至ツタ。即生活結核菌ヲ以テセル Calmette<sup>1)</sup>ノ方法ヲ普ク全世界ニ及ホシテ全人類ヲ結核化スベキ事又吾人が北米合衆國及ビ加奈咤ニ於テ施行シタル Calmette<sup>2)</sup>ノ豫防法ヲ繼續シテ果シテ結核死ヲ著シク減ジ又ハ小兒ノ感染豫防ニ成功スルデアラウ乎。近時ノ結核菌ノ生物學的研究ニヨリ細菌ハ安定性ノモノデハナクシテ變化シ得ルコトヲ強ク暗示シテ居ル。B、C、Gハ比較的弱毒ノ細菌デアルトハ云ヘ體內ニ於テ晩年ニハ何事ガ起ルカハ未知ノ問題デアル。人間ヨリ人間ニ傳染ヲ繰返ス場合恐クハ舊ノ強大ナル毒性ヲ再現スルニ至ルノテハナイ乎。吾人ハ凡テノ細菌ノ Evolution<sup>3)</sup>及 Mutation<sup>4)</sup>ヲ信ズルガ故ニ生活菌ヲ豫防免疫ノ方法トシテ接種スルコトニハ斷然反對スルモノデアル。毒性細菌ニ感染シテ潜伏結核ヲ發生シタル小兒ハ成人トナリテハ臨牀上發現疾患トナリ得ルコトハ否定テキナイ。吾人がB、C、Gヲ小兒ニ感染セシメテモ同様ナ事が發生シナイデアラウ事ヲ示スベキ科學上ノ事實ハ現在ニハ一ツモナイガ此ノ如キ災厄ガ起ルカモ知レナイ事ヲ暗示スル信證スベキ事實ハ實在スルノデアル。生活菌ヲ接種シテ得ラル、企及抵抗力ノ低水準位ノモノハ吾人ハ他ノ方法ニヨリ得ラル、ノデアル。此ノ如キ抵抗力ヲ購フニ全人類ノ感染ヲ以テスルハ果シテ如何。若シワクチン

ヲ用キザルベカラズトセバ須クB、C、Gト同程度ノ抵抗力ヲ賦與スル死結核菌ヲ以テセバ足ルト信ズル。  
(寺尾抄)

## 27、紐育市民ニ對スルB、C、Gノ經口「ワクチン」

Camille Kereszuri

著者ハ紐育市ニ於テ二ケ年間ニ一八三名ニB、C、Gヲ經口のニ與ヘタル成績ヲ報ジタリ。内八七名ハ十二ヶ月以上ノ小兒ナリ。結論ハ次ノ如シ。

- (一) 經口のB、C、G「ワクチン」ハ比較的ニ簡單ナリ。
  - (二) 而モ無害ナリ、(三) 而シテアル種ノ免疫性ヲ賦與ス、(四) 免疫ノ程度又繼續ハ未ダ決定スルコト能ハズ。
- (寺尾抄)

## 28、結核症ニ見ル血液中ノ白血球反應ノ評價

E. M. Mecliar

結核特有ノ白血球反應ハナイノヲ診斷ノ目的ニ白血球像ヲ用フルコトハ不可能デアアル。即白血球增多ハ體內ニアル種ノ病の事件發生ヲ示スノミテ從ツテ特異性感染ノ診斷ヲ確ニスルモノテハナイ。臨牀的ニ結核ヲ診斷シテ而シテ後ニ各白血球が結核病因中ニ演ズル役割ニ根柢ヲ置キ白血球像ヲ判斷スベキテ結核病機進展中ニ起リツ、アル變化ニ關シテ有效ナル知見ヲ得ラル、デアラウ。又患者各個ノ療養狀況ニ基キテ各例ヲ斷ズベキデモ概念的ニ考フルコトハ效ガナイ。白血球反應ノ結核個人ノ臨牀所見ト甚シク一致スルコトガ屢、アルガ時ニハ臨牀上得タ印象ト白血球像トガ甚シク相背致スルコトガアル。カ、ル場合ニハ白血球像ノ方が結核性機轉ヲ語ルニ眞實ニ近イト考ヘラル。又結核性機轉ノ廣サト位置トハ白血球反應ニヨリテハ知ルヲ得ナイ。初期結

核ノ例テハ遙ニ進行シタル場合ト同様ニ非正常的ナ血球像ヲ呈スルコトガアル。白血球像ハ採血シタル當時ノ結核性機轉ヲ示スニ過ギナイ。故ニ病勢ノ方向ヲ決定セムトスル場合ニハ血球算定ヲ屢、行フ必要ガアル。血球像間ノ本質的關係ニ何等變化ノナイ場合ニハ白血球算定ハ餘リ屢、行フヲ要セナイ。又白血球像ハ確タル豫後指針トハナラナイ。中性嗜好細胞ハ結核性膿瘍形成及結核性壞瘍ノ擴大ノ場合ニ主役ヲナス。單核白血球ハ新ニ結節ヲ作ル場合ニ主細胞トナリ淋巴球ハ結核菌ガ治癒スル場合ニ主トナルモノテ「エオジン」又ハ鹽基嗜好細胞ニ關シテハ現今テハ未ダ一定シタル歸結ヲ得ラレナイ。  
(寺尾抄)

## 29、肺結核ノ豫後及治療上ニ應用セル白血球像

John W. Flinn & Robert S. Flinn

活動性肺結核ノ合併症ナキ場合ニハ白血球像ハ次ノ如ク考フルヲ得ベシ。

- (一) 單核細胞淋巴球比ノ増加即チ單核細胞ノ率ガ減ジ同時ニ淋巴球率ガ増加スルコトハ殆ンド決定的ニ肺状態ガ良好ナルヲ示セドモ之ノ逆ハ反對ノ意味ヲ有ス。
- (二) 淋巴球中性嗜好細胞比ノ増加即チ淋巴球ノ率ガ減ジ中性嗜好細胞ノ率ガ増加スル場合ニハ肺ノ状態ハ惡化セルヲ示シ、コノ逆ハ其反對ノ意味ヲ有ス
- (三) カクノ如キ結論ハ肺結核ノ診斷及ビ治療ニ補助ヲナスコト明白ナリ。尙ホ本實驗ノ結論ハ一部學者ノ臨牀上ノ研究トヨク一致セルガ故ニ次ノ如キ假設ヲ建テ得ベシ、
- (一) 單核細胞率ガ高ク淋巴球率ガ正常カ又ハ低キ場合ニハ活動性擴大性竈ヲ示シ單核細胞率が昂上シ淋巴球率が正常ナルカ又ハ低下セル場合ニハ擴大性機轉ノ伸張又ハ増大カ或ハ肺外結核ノ併發シツ、アル事ヲ示セリ。



(一) 中性嗜好性細胞率ノ高キハ滲出性瘻ヲ示シ之ガ昂上シツノアル場合ニハ滲出性機轉ノ伸張又ハ増大ヲ意味ス。

(二) 淋巴球率ノ高キハ治癒癩ヲ示シ淋巴球率が昂上シツ、アルモノハ治癒ノ傾向ヲ増スコトヲ意味ス。

以上ノ如ク肺結核ノ病理學的機轉ノ伸張ハ普通先ヅ血像中ニ現ハレ次テ物理的所見ヲ示シ、X光線ニ映シ最後ニ凡テノ症狀ガ出現スルモノナリトノ印象ヲ得。

### 30、過去及ビ現在ニ於ケル結核病ノ流行病學

Walter W. Lee

一八六五年以後ノ統計ニヨリ白人九千萬、黒人七百萬ニ就テ結核病ノ流行病學ヲ研究シ其細項ニ互リ過去ト現在トノ結核死亡率ヲ比較シタルモノナリ。特ニ次ノ各項ヲ興味アルモノトナセリ。

(一) 白人ト黒人トノ結核死亡率ハ年齢級ニヨリテ異レドモ一對二及ビ一對五ノ間ニアリ。

(二) 白人ノ小兒ニ於テハ結核性腦膜炎ニテ死亡スルモノハ肺結核ニヨリテ死亡スル數ヨリ多ケレドモ黒人ニ於テハ何レノ年齢級ニ於テモ他ノ凡テノ結核症ニ勝レリ。

三、小兒期ノ死亡率ヲ成人期ノモノニ比較セバ黒人ハ白人ヨリモ大ナリ。

四、十歳以下ノ黒人ト白人トノ結核性腦膜炎ノ死亡比ヲ見ルニ同率ナリ。

五、マサチューセツツニ於ケル結核死亡比ハ世界大戰間一九一乃至一九一八年ニ著シク増加シ男子ノ増加ハ一九一五年頃ヨリ始マリ女子ハ一九一七年頃ヨリ初マル。

六、女子ノ比ハ一五乃至二九歳ノモノヲ除キテハ戰前ノ傾向ニ復歸シ一五乃

至二九歳ハ減少シツ、アレドモ戰前ニ比シテ減少ノ度合ハ緩慢ナリ。

七、マサチューセツツニ於テハ給料自活階級ノ成人男子ニテハ事實上戰前ノ減少傾向ヨリモ下位ニアリ。

八、一〇乃至一四歳テハマサチューセツツニテハ男對女ノ結核死亡比ハ一對三ニシテ一八六五年來不變ナリ。

九、一九一八年ノ流行性感冒ニヨル多少ノ影響ハ明ニサレル。

十、紐育市ニ於テハ世界大戰間ニテハ男子ハ一五乃至二九歳ガ僅ニ例外テ他ノ年齢別テハ結核死亡數ハ僅微ニ増加シタリ。然ルニ一五乃至二九歳ノ女子ニ於テハ同年齡ノ男子ニ比シテ著シク増加セルヲ見ル。

十一、一九一五年頃ヨリ男子ニテハ結核死亡數ハ著シク減シ戰後ハ戰前ニ比シテ可ナリ低下セル傾向アリ。

十二、紐育市ニ於テハ一般ニ女子ノ比ニマサチューセツツノソレト同様ナレドモ男子ノ比ハ高度ニシテ殊ニ高齢ニ於テ然リ。戰後ハ男子ノ比ハ同率ニ近付ケルモ戰前ノ傾向ヨリ著シク低下セリ。

十三、マサチューセツツニ於テ〇乃至二年ノ腹部結核ノ死亡率ハ合衆國々勢調査院ノニ比セバ一九一二年以前ヨリ著シク高率デアル。一九一二年來月別死亡數ハ著シク變化シテ居ル。腹部、肺以前ノ結核ノ詳細ニ就テハ一九一二年以前ト以後トハ明日ニ比較シ得ナイ。

十四、成人女子ノ結核死亡數ハ最近三十餘年以來男子ニ比シテ急速ナル減少ヲ示シテ居ル。同時ニ五歳以下ノ小兒ノ率ハ一八六五年來九五%ダケ低下シテ居ル。若キ女性母性ヲモ含ムノ結核感染ノ減少ハ小兒ノ感染減少シ大ナル因子ヲナセルハ疑フヲ得ナイ。又現在ノ小兒ノ感染減少ハ次期世代ノ母性中ノ感染減少ヲ來ス結果トナル。過去五年間ノ男性及女性間ノ傾向ガ逆ナリ

シナラバ恐クハ現今ノ一般結核罹病率ハ倍加シテ居タテアラウ。カクノ如キ條件ハ多少ナリトモアリ勝テ現ニアイルランド、瑞西テハ男女間ノ死亡率ハ常ニ高クシテ且同率ヲ示シテ居ル。

十五、若シ現在ノ結核死亡率ガ將來ニ於テモ保タルナラバ一九九〇年ノ一般結核死亡率ハ人口十萬ニ付十名トナリ宛モ現在ノ「チフテリー」ト同等ノ死亡率トナルベキ筈テアル。

(寺尾抄)

## 結核専門外雜誌

### 31、肺結核患者ノ基礎新陳代謝竝ニ二三藥物

ノ之ニ及ボス影響ニ就テ

菊池清一(北海道醫學雜誌第七年第十二號)

結核殊ニ肺結核ノ物質代謝ガ著シク障碍セラル、コトハ古クヨリ一般ニ信セラレシトコロニシテ、之レニ關スル業績モ亦少ナカラズ學者競フテ攻究シタリト雖モ、其ノ結果ニ至リテハ必ズシモ一致セズ、著者ハ Benedict 氏臨牀用呼吸裝置ヲ用ヒ、七五例ノ肺結核患者ニ就キ、基礎新陳代謝ヲ測定シテ次ノ如キ結論ヲナセリ。

- 1、無熱(又ハ微熱)ノ肺結核患者ニ於ケル基礎代謝ハ正常價ヲ示スカ、或ハ $\pm 5\%$ 内外ノ輕度ノ上昇ヲ示スモノ最モ多數ヲ占ム。
- 2、初期肺結核ノ患者ニ於テハ基礎代謝ノ亢進ヲ見ズ、赤血球沈降速度及ビ基礎代謝共ニ正常價ヲ示セリ。
- 3、滲出性肺結核ニ於テハ増殖性肺結核ヨリモ、基礎代謝亢進ノ度概シテ大ナリト云フコトヲ得ベシ、サレド基礎代謝ノ高低ハ單ニ病型ノミニ關スルモ

ノニ非ラズ、結核病機蔓延ノ程度ニヨリテ差アリ。

粟粒結節性結核ニアリテハ基礎代謝亢進ノ最モ著シキヲ認メタリ。

4、炎症既ニ消退シテ下熱期ニ入レル肋膜炎及ビ腹膜炎患者ノ基礎代謝ハ病原ノ經過ト一致シ、多發性漿液膜炎ノ像ヲ呈スルモノ及ビ兩側性罹患ノ場合ニハ異常ノ上昇ヲ示スコトアリ。

5、基礎新陳代謝ト赤血球沈降速度トハ大體ニ於テ相並行シ、基礎代謝上昇セル例ニアリテハ赤血球沈降速度モ大ナルヲ見ル。

6、肺結核患者ニアリテハ健康者ヨリモ「チレオイヂン」ノ持續的投與ニヨリテ起ル基礎代謝ノ増強著シク、且ツ蛋白食餌性特異力學作用ハ「チレオイヂン」投與後、健康者ニ於テハ著變ナキニ反シ、肺結核患者ニ於テハ増進ノ傾向ヲ示スモノ多シ。

7、少量沃度ノ持續的投與ハ肺結核患者ノ基礎代謝ヲ低下セシム。此ノ低下作用ハ基礎代謝高キ例ニアリテハ殊ニ著明ナリ。

8、「ツベルクリン」ノ注射ニヨリテ起ル基礎代謝ノ亢進結核病機ノ性質ニ關シ、良性ノモノニハ弱ク、惡性ノモノニハ強シ。

9、「ツベルクリン」ノ注射ニ由來スル基礎代謝亢進ハ一般ニハ體温ノ上昇ト相伴フモノナリ。サレド發熱ナキ場合ニモ基礎代謝ノ上昇ヲ來スコトアリ。

10、肺結核ニ於ケル基礎代謝ノ上昇ハ甲状腺機能亢進ノ結果ト解スベク、而シテ「ツベルクリン」ガ甲状腺ヲ刺激スル事實ニ鑑ミ此ノ基礎代謝亢進ノ作用機轉ヲ明カニシ得タリト信ズ。

(加藤抄)

### 32、結核腎別出後核殘腎ニ於ケル結石性無尿症ノ二例

醫學博士井尻辰之助 醫學士秋田五郎(皮膚科紀要第十四卷第三號)

著者等ハ大阪華陽堂病院ニ於テ主トシテ慢性膀胱炎ノ症候ヲ主訴トセルモノニ就キテ臨牀上諸種検査セル結果之レガ腎臟結核ニ附隨セル膀胱結核ニ基因セル確證ヲ得、該患側腎ヲ剔出セルニ、術後未ダ幾許モ經ズンテ而モ殘存セル姉妹腎側ニ突如トシテ發作性ニ偶發セシ結石性無尿症ノ二例ヲ經驗セリ、茲ニ該例ニツキ臨牀上觀察シタル所見ヲ詳細ニ記載シ且ツ從來報告セラレタル類似症例ヲモ併記シ、彼此相對照シ之レガ本態ヲ論ジテ次ノ如キ結論ヲナセリ。

1、結核腎剔出後殘存セル腎側ニ發來スル結石性無尿症ハ歎クトモ本邦ニ於テハゴツトスタイン氏ノ云フガ如ク類數ナルモノト思ハレズ其ノ報告サレタルモノ、僅ニ一例アルノミナリ余等ハ茲ニ其二例ヲ追加セントス。

2、斯ル無尿ヲ惹起セル場合結石ハ其ノ對側腎剔出時既ニ腎盂ニ成生サレアリシモノナルヤ否ヤハ判別極メテ困難ナルコトアリ、余等ノ症例ニ於テハ何レモ腎剔出前殘腎側ノ尿中ニ極メテ少量ノ膿球ト雙球菌或ハ葡萄狀球菌、赤血球ヲ證明シ尙當時「カテーテル」ヲ容易ニ腎盂迄挿入シ得タルコト、色素排泄ノ佳良ニシテ淋巴球、結核菌等ヲ證明セザリシコトヨリ推察スルニ恐ラクハ腎剔出前既ニ極メテ少量ノ結石ヲ腎盂ニ宿セシモノト推測スルヲ當レリトス、

3、何レモ術後比較的短時日ヲ以テ無尿ヲ來セリ、之レ一ツハ手術ノ影響ニ依ル濃縮尿ノ排泄が結石ノ増大ヲ助長シ他方ニ於テハ尿量ノ増加が機械的ニ作用シ結石ノ下行ヲ容易ナラシメタルモノト推斷ス。

4、本結石性無尿ハ中年男子(三〇乃至五〇歲)ニ頻發ス、而カモ結核腎ヲ剔出スルコト類同ナルニ殘腎側ニ結石ノ發生ヲ見ルハ余等ノ經驗ニ於テモ稀ナリ、是等ノ關係ヨリ考察シテモビッチャイ氏ノ言フガ如ク結核ニ於ケル赤血

球沈降速度ノ増加異常ニ伴フ尿中「コロイド」量ノ變化ノミヲ以テ結石ノ成因

ト見做スハ早計ノ如ク尙ホ一般の尿石形成因子ノ共存ヲ疑ハシム。

5、結核腎剔出後殘腎側ニ形成セラル、結石ハ磷酸鹽結石ヲ最多トシ他ニ何等特殊ナル化學的集成ヲ認メズ。

6、腎露出術ヲ行ヒ腎盂及ビ其周邊ニ結石ノ存在ヲ認メザル場合ニ際シ結石ヲ膀胱内ニ轉落セシムベク試ムルコトハ再び結石嵌頓部ノ輸尿管切開法ヲ行フヨリモ先ヅ試ムベキ手段ナリ。

7、結石ヲ除去或ハ排出シ完全ナル尿道ノ目的ヲ達成シタル場合ト雖モ屢々結石ガ再形成セラル、懼アルヲ以テ常ニ豫防の方面ニ於テモ留意スベキハ須要ナルコト、思惟ス。  
(加藤抄)

### 33、肺及喉頭結核ニ於ケル氣管ノ特殊的變化

F. Dobromyjski, Zentralblatt für die gesamte  
Tuberkuloseforschung, Bd. 31, H. 11/12, 1929)

五一八例ノ結核屍ノ解剖所見ニシテ氣管ノ結核ハ從來考ヘラレシヨリ屢々存在スルモノナリ、即チ凡テノ解剖例ノ二五%ニ、上氣道結核ノ五〇%ニ於テ見ラル、氣管ノ中ニテ最も多ク冒サル、場所ハ下三分ノ一、次ニ上三分ノ一ノ處ニシテ後壁ノ冒サル、事前壁ヨリ多シ、氣管結核ハ大多數喉頭結核ニ續發スルモノナリ。  
(春木抄)

### 34、結核ノ母親ニ對スル保護

Emilio Alferi, (Zentralblatt für die gesamte  
Tuberkuloseforschung, Bd. 31, H. 11/12, 1929)

肺結核ハ妊娠並ビニ產褥ニヨリテ惡影響ヲ受クル故ニ結核妊婦ニ對シテハ其病狀ニ關スル適確ナル診斷ヲ下シ此レニヨリテ常ニ保護、指導ヲナス必要ナ

リ、家庭内ニ於テ充分ニ保護ヲ加ヘラレザル妊婦並ビニ、開放性結核ヲ有スル母親ヨリ生レタル小兒ヲ收容スル爲メノ充分ナル設備ヲツクラザル可カラズミラノニ於テハ此目的ノ爲メニ、結核妊婦、産婦、産褥ニアル婦人ヲ收容スル結核相談所ノ部門アリ。

(春木抄)

會報並ニ雜報

○一月中入會者

千葉醫科大學 千葉市

第二内科醫局

春成 醫院 石川縣七尾町桶町

矢田 貝 薰 京都市東九條御靈町

日本赤十字社 和歌山市

和歌山支部病院

佐川 豊 東京市牛込區市ヶ谷臺町一〇、久野病院醫局

谷口 三郎 福井市手寄中町三四

大川 昇 熊本縣宇土郡戸馳保養園内

藤井 幸二 東京市神田區小川町五一

長倉喜左久 東京市麻布區富士見町五〇、米滿方

高橋 洪一 大阪市東成區今福町、川水電氣製作所

風間 七衛 京都市堺町表川上ル

石岡 兵三 基隆市仙洞、築港醫務室

島野完治郎 三重縣一志郡久居町東鷹跡町七七ノ二

○旅館豫約申込

第八回本會總會ニ御出席ノ本會々員ニテ旅館ノ豫約ヲ希望セラル、方ハ大阪